

全体を通して――

問一 この話（「東下り」）の初めに男が自身を必要のない者と思ひ、『京には住むまい。』と旅に出たと書いてあるが、
「唐衣」「駿河なる」「名に」の歌をふまえると次のどちらの可能性が高いか。

ア京が嫌になつて旅に出た。
イ京にいられなくなつて旅に出た。

問二 三つの歌で妻への思いの表し方はどう変化しているか。

唐衣： 都には妻がいる。この旅には感ずることが多い。

駿河： 夢に妻が出てこない。
名に： 都鳥よ、妻が無事かどうか教えてくれ。

ア変化していない。

イ後になるほど直接的になっている。
ウ後になるほど間接的になっている。